

愛機を前に、43年間にわたる飛行機の思い出を語る前田さん。引退後も若手の指導に取り組むつもりだ＝坂井市春江町の福井空港



43年大空かけた

県内アマパイロット草分け

83歳前田さん（永平寺町）引退

県内のアマチュアパイロットの草分けで、80歳を超えても現役でフライトを続けてきた前田利丸さん（83）＝永平寺町＝が、この10月で引退した。パイロットに必要な航空身体検査がパスできなかったためだが「今後も若い人と飛んで操縦を教えたい」と、大空へのこだわりは捨てていない。

前田さんは少年時代に戦闘機に興味を持ち、太平洋戦争中に通っていた坂井農学校（現坂井農高）を中退し、愛知県の飛行機研究所で整備を学んだ。戦後も空を飛びたいという思いは募り、1966年に福井空港が開港したのに合わせ、翌年40歳で家用操縦士の免許を取得した。トラック運転手をする傍ら、免許取得後すぐに米国から設計図を取り寄せ、自ら飛行機を作って空を飛び回った。この機が古くなると、2003年には中古の軽飛行機を購入した。43年間の飛行時間は1091時間、福井空港への着陸回数は1123回に上った。

「若い人を教えたい」

は児童にとつて『自分が見ている物事がすべてではない』という教材になる」と笑顔を見せる。80歳を前に引退を考えたこともあった。それでも先延ばしにしてきたのは「喜んでもらえるなら、体力が続く限り続けよう」と思ったからだ。

ただ、今月8日に1年間有効の航空身体検査の期限が切れ、その後の更新にパスできなかった。最後のフライトは期限最終日の8日。この日もカメラマンを乗せ1時間半、福井市内の小学校を撮影し、琵琶湖や三方五湖の上空を巡った。

これからは自分で操縦かんを握ることではできなくなるが「大した問題ではない」と前田さんはこともなげ。当面は家用機を手元に置き「操縦が不安な若い人を乗せて教えるつもり」という。「自分は飛行機を通して人と知り合い、人生観が変わった。経験の少ない若い人のサポートなら、今後も役に立てる」と力強く話している。